

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
1 6 2	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption in patients with acute or chronic pancreatitis. 急性および慢性膵炎患者における飲酒について	
執筆者	
Sand J, Lankisch PG, Nordback I.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Pancreatology. 2007;7(2-3):147-56. Review.	
キーワード	
総説、飲酒、急性膵炎、慢性膵炎	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>飲酒と膵炎の発症の関連を理解することはアルコールが膵炎に与える影響を解明する助けになる。100年以上にわたり、アルコールと飲酒の関連は検討されてきたが、飲酒者において膵炎を発症する者とそうでない者が存在するその違いは未だ解明されていない。驚くことに急性膵炎発作や慢性膵炎の診断時期以前における飲酒量、飲酒様式、飲酒の種類、他の食習慣や喫煙に関する検討報告はほとんどない。この総説では最近の知見を概説する。</p> <p>結果：</p> <p>疫学研究では飲酒と急性及び慢性膵炎発症の関連が強いことが示されていた。個人のレベルでは急性もしくは慢性の膵炎の発症は飲酒量が増加するとともに増加していた。さらに、急性膵炎の再発は飲酒量と強い関連を示していた。禁酒は急性膵炎の再発を抑え、慢性膵炎の痛みを軽減する。それ故に全ての報告で急性膵炎後も慢性膵炎の診断が下された後も飲酒量を減らすように奨励されていた。喫煙は飲酒とともに慢性膵炎の要因であると考えられているが、急性膵炎においてはこの関連を示すデータは十分ではない。</p> <p>結論：</p> <p>現段階では膵炎の予防のための許容飲酒量やどの種類なら許容できるかといったことは明らかではない。許容飲酒量設定は既存の報告データに基づいたものではなくむしろ政治的な同意であろう。今後、飲酒許容量や他の急性膵炎および慢性膵炎発症と関連のある因子についてさらに検討する必要がある。</p>	